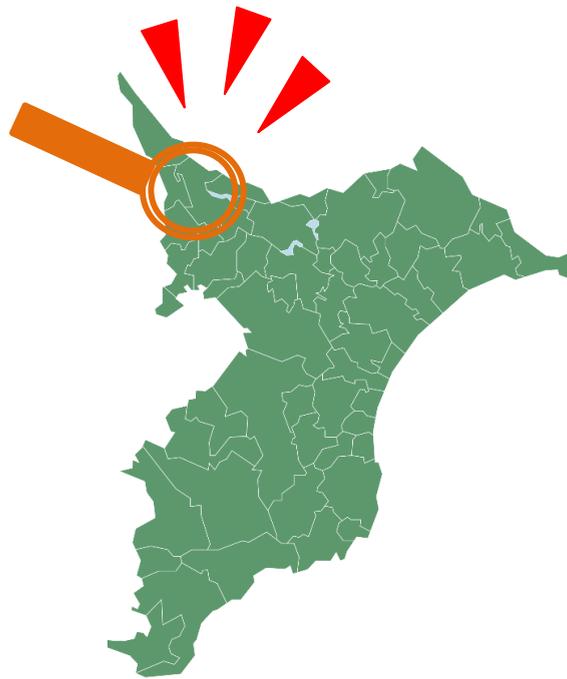


2023・3

柏の景気情報

令和5（2023）年3月の調査結果



柏商工会議所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課

〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18

TEL : 04-7162-3305

FAX : 04-7162-3323

URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>

E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報 (令和5年3月の調査結果のポイント)

★調査結果のまとめ

回答期間: 令和5年3月23日～令和5年4月4日 調査対象: 柏市内150事業所及び組合にヒアリング、回答数103

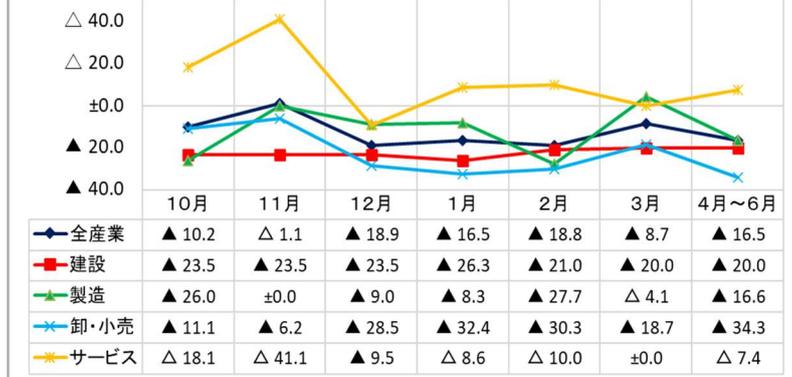
全産業DIは改善、特に製造業はプラスに至る大幅改善。先行きは度重なる価格高騰や賃上げ等によるコスト増に厳しい見方

3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲8.7(前月水準▲18.8)となり、マイナス幅が10.1ポイント縮小した。

プラスにDI値が改善した製造業からは、製造量がコロナ前に戻ってきた、モチベーションアップを期待して賃上げを実施等のコメントが寄せられた。また、マスク着用緩和や天候に恵まれたことにより、多くの小売業で売上が上昇した。しかし、エネルギー価格、原材料費等高騰で採算悪化の声も大きい。

先行きDIは▲16.5(今月比▲7.8)と悪化を見込む。コロナ禍からの正常化に向けた回復の動きも見えるが、度重なる価格高騰や賃上げ等によるコスト増に厳しい見方。

柏の景気情報・産業別業況DI



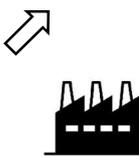
★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



建設業

「幼稚園や保育園など大きな工事が続き業績が上がると思いきや、入金より支払いが先行するため、大きな工事をすればするほど資金繰りに苦労する」(とび)、「原材料高騰によって痛手を被っているが、取引先のご厚意で売上が上がり感謝している」(畳)、「先進的窓リノベ事業の補助金の問合せが多く、受注が好調」(一般土木建築工事)



製造業

「原材料やその他副資材の高騰が継続しており業況悪化。値上げ交渉を進めるも、顧客の了解が得られない」(電子応用装置)、「低迷していた化粧品容器の受注に若干回復の兆し」(プラスチック加工)、「工場全体の製造量はコロナ前に戻ってきたが、輸出を除いた国内ではコロナ前より約10%減」(酒類)、「受注は好調。納期の長い案件が多く、マネーフローが悪くなっている」(機械・同部品)、「取引先の過剰在庫により、売上減少が数か月続く見込み。電力高騰が収益を圧迫」(鉄鋼業)、「原材料、副資材に加え、電車運賃、仕出し弁当など従業員の日常品の値上げが続く。パート職は昨年10月、社員は今月賃上げを実施しモチベーションアップに期待」(金属製品)、「原材料、仕入商材、電気料の値上げが止まらない。価格転嫁が難しいものもあり採算悪化」(自動車付属品)



卸・小売業

「売上は食品が昨年比5%増、衣料品が20%増。お出掛け需要が上昇。お客様は価格に敏感」(大型小売店)、「エネルギー価格や原材料費高騰に伴い人件費や在庫調整など経費削減を試みるが、施設や店舗により厳しい状況」(各種商品小売)、「マスク着用緩和も後押しし、入店・取扱高ともにコロナ禍以前を上回る。ゴールデンウィークに向け、旅行関連・アパレル雑貨に更なる期待」(百貨店)、「天候に恵まれ売上増だが採算悪化が続く」(各種商品小売)、「主要取扱品の海苔が凶作で高騰。注力したい輸出や通販にまわす在庫がなく悔しい」(食料卸売)、「主原料の卵と生クリームの値上げが痛手。卵の入荷が心配」(洋菓子店)、「シリコンバレー銀行破綻に端を発した問題の影響か、地銀3行全てで快諾されていた融資が保留に」(自動車卸売)、「トヨタ自動織機のフォークリフト出荷停止で物流業界が混乱しそう。2024年問題も控え業界にダメージ」(産業機械器具卸売)



サービス業

「新年度に向けた新規顧客開拓と、新事業の発足が必須」(ソフトウェア)、「原材料の再値上げが相次ぐ。人手不足も深刻」(日本料理)、「TX沿線の賃貸市況は良好で、良質な土地は希薄状態。三郷市に渡す新橋の開通が楽しみ」(不動産賃貸・管理)、「建築費の高騰や、物価上昇で採算悪化。金利上昇により問合せも減少」(不動産管理)、「生活費上昇が影響し新規入会の動きが悪かったが、3月後半は例年ほどの問合せに」(学習塾)、「金融機関に借換融資を依頼したがどこも厳しい回答。コロナ融資の返済開始で倒産が増え、借換・新規融資が厳しくなっている。弊社では微増ながら売上を伸ばしており、貸し流りで経営困難になるのは避けたい」(一般貨物運送)、「コロナ禍の鎮静化、インバウンド回復による業況改善を見込む」(技術サービス業)、「ダイオキシン問題で建設された都市ごみ焼却炉設備の老朽化に伴い、設備更新の相談件数が増加」(技術サービス業)、「エネルギー価格、仕入高騰が利益を圧迫しているところに賃上げのダブルパンチ。来月からの値上げでどれだけ客離れが起こるか不安」(ゴルフ練習場)

★全国の商工会議所早期景気観測調査(CCI-LOBO)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲8.7に対し、「CCI-LOBO」が▲14.8で、柏の方がマイナス幅が6.1ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、卸小売業であり、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、サービス業である。

今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI
業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 8.7	 ▲ 20.0	 4.1	 ▲ 18.7	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 14.8	 ▲ 24.5	 ▲ 18.9	 ▲ 19.5	 2.8
売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 4.8	 ▲ 10.0	 ±0.0	 21.8	 ±0.0
CCI-LOBO	 1.9	 ▲ 11.9	 1.2	 ▲ 6.8	 19.4
採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 11.6	 ▲ 25.0	 ▲ 16.6	 ▲ 15.6	 7.4
CCI-LOBO	 ▲ 20.1	 ▲ 26.6	 ▲ 25.5	 ▲ 23.4	 ▲ 8.1
仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 73.7	 ▲ 50.0	 ▲ 95.8	 ▲ 81.2	 ▲ 62.9
CCI-LOBO	 ▲ 75.1	 ▲ 84.4	 ▲ 78.7	 ▲ 74.2	 ▲ 67.4
従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 15.5	 25.0	 4.1	 15.6	 18.5
CCI-LOBO	 21.8	 33.6	 15.7	 15.6	 27.3
資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 13.5	 ▲ 15.0	 ▲ 16.6	 ▲ 15.6	 ▲ 7.4
CCI-LOBO	 ▲ 15.1	 ▲ 12.8	 ▲ 17.1	 ▲ 19.7	 ▲ 11.0

CC I - L O B O

商工会議所早期景気観測(3月速報)

調査期間：2023年3月15日～22日

調査対象：全国の327商工会議所が2,503企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、コロナ禍からの活動回復が進み、改善。先行きは、コスト増や外需停滞等から、厳しい見方

3月の全産業合計の業況DIは、▲14.8と、前月から+4.6ポイントの改善。サービス業では、マスク着用ルール緩和による消費者意識の変化で、客足が回復した飲食・宿泊業を中心に改善した。小売業では、インバウンド需要の増加により売上が堅調な百貨店を中心に改善した。建設業でも、需要が増加する住宅関連の民間工事に下支えされ、改善した。一方、製造業では、電子部品関連の外需減退で横ばいに留まり、卸売業では、製造業関連の引き合い減少に加え、保管料等のコスト増も重なり、悪化となった。原材料・エネルギー価格の高騰等によるコスト増や人手不足、度重なる仕入価格の上昇に価格転嫁が十分に行えていない等、経営課題は山積するも、経済活動は回復が進み、中小企業の業況は改善した。

先行きについては、先行き見通しDIが▲16.3（今月比▲1.5ポイント）と悪化を見込む。経済活動の回復への期待感は何える一方、業種を問わず原材料・エネルギー価格の高騰、人材確保に向けた賃上げ等によるさらなるコスト増が懸念される。また、海外経済の鈍化や人手不足による受注機会の損失で売上悪化も危惧される。政府の激変緩和措置はあるものの、度重なるコスト増に対する価格転嫁も十分に行えておらず、企業収益の圧迫が続いており、先行きは厳しい見方となっている。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

業種別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、卸売業が悪化、製造業は横ばい、その他の業種で改善した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「人手不足対策として高齢化している技術者の若返りを図るため、企業説明会の実施やウェブサイトの更新、SNSを活用した新卒・中途採用を実施。また、生産性向上のため、現場と本社の連携による事務作業の効率化に着手し、従業員の待遇改善を図っている」

（一般工事業）、「受注数は堅調に推移しているが、建築資材や人手不足で人件費が高騰しており、原価に見合う受注金額が確保できず、収益を圧迫している」
（管工事業）

【製造業】「コロナ禍を契機にネット通販事業を開始し、売上は堅調に推移している。一方で、ネット通販事業を開始している同業他社も増加してきており、他社との差別化を図ることで、安定した収益確保に努める」

（健康食品製造業）、「海外からの受注が急激に減少しており、今後の受注増加も厳しい状況である。収益悪化を防ぐため、価格転嫁交渉を進める」
（計量器測定器等製造業）

【卸売業】「仕入価格の高騰が続いており、価格転嫁を進めているものの、全ての上昇コスト分を転嫁できていない。差額分を自社で負担している中で、電気料金、梱包資材の価格も上昇しており、収益を圧迫している。コロナ融資の返済も始まるため、資金計画を作成し、実行していく」

（建築材料卸売業）、「海外からの受注数が減少しているものの、ベースアップを実施し、従業員のモチベーション向上に繋がった」
（電気機械器具卸売業）

【小売業】「インバウンド需要の増加により、売上は回復傾向にある。今後の安定的な収益確保に向けては、地域住民の取り込みが重要課題であるため、催事やイベント等を通じた販促活動に注力していく」

（百貨店）、「コロナ禍も落ち着きを見せ、イベント等への客足も回復している。季節的に人の移動が旺盛になるため、需要の取り込みに努める」
（日用品小売業）

【サービス業】「インバウンド需要の回復に加え、消費者の意識の変化も見られ、少しずつ団体客の利用も増加。一方で、

人手不足が深刻化しており、受注機会を逃してしまいうケースも出てきている」
（飲食店）、「仕入価格の上昇分についてサービス価格への転嫁を実施。今後の収益改善に向けて、事務作業の効率化による生産性向上を図っていく」
（写真業）

全国・産業別業況DIの推移

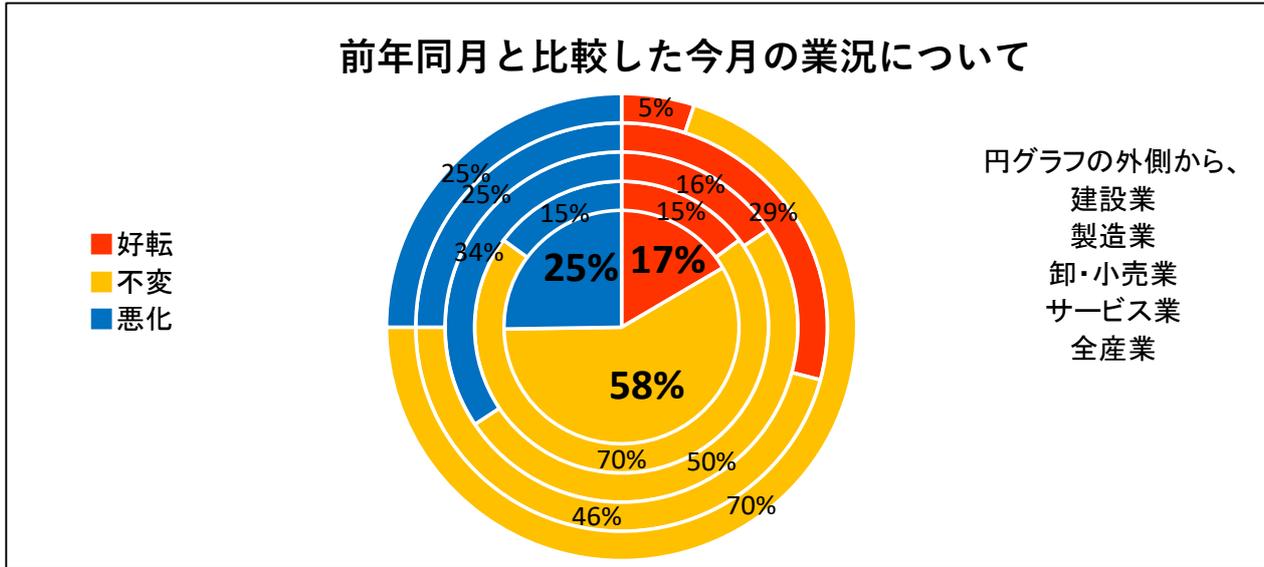
「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
10月	▲20.7	▲29.9	▲20.1	▲21.1	▲29.4	▲8.1
11月	▲16.4	▲22.9	▲16.2	▲20.3	▲23.9	▲4.5
12月	▲18.4	▲27.2	▲14.2	▲16.3	▲32.1	▲7.0
1月	▲18.4	▲25.1	▲16.9	▲17.3	▲27.1	▲8.8
2月	▲19.4	▲31.9	▲18.4	▲16.4	▲25.9	▲8.6
3月	▲14.8	▲24.5	▲18.9	▲22.4	▲19.5	△2.8
見通し	▲16.3	▲23.9	▲21.1	▲21.9	▲18.7	▲2.2

令和5年（2023年）3月の動向

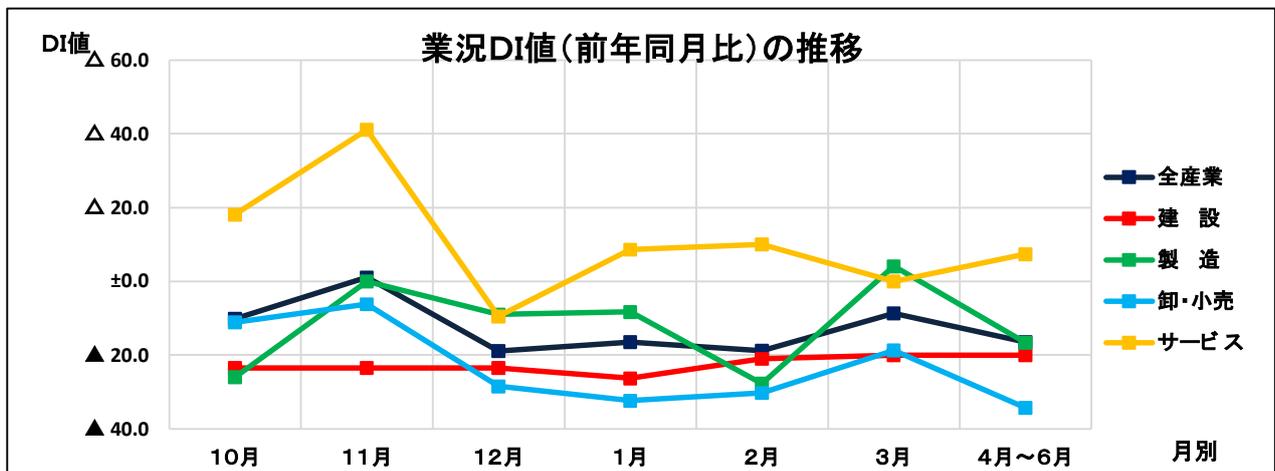
【業況について】

- 3月の全産業合計のDI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲8.7（前月水準▲18.8）となり、マイナス幅が10.1ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月（4月から6月）の先行き見通しについては、全産業では、▲16.5（前月水準▲7.7）となり、マイナス幅が8.8ポイント拡大する見通しである。



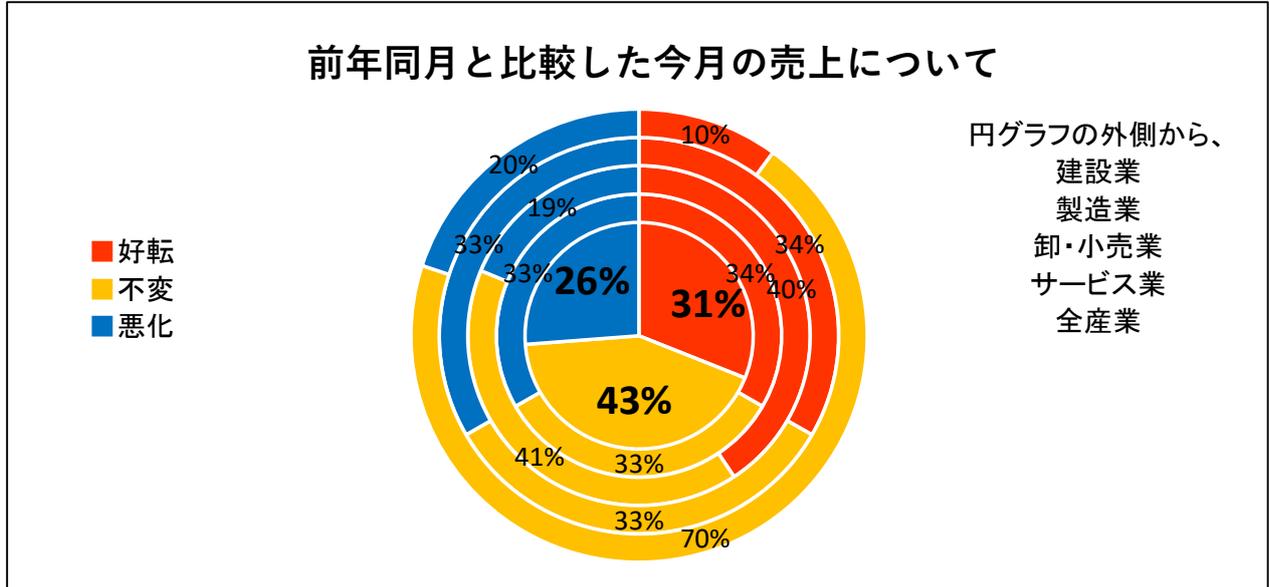
業況DI値（前年同月比）の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和4年				令和5年			先行き見通し
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月～6月（3月～5月）	
全産業	▲10.2	△1.1	▲18.9	▲16.5	▲18.8	▲8.7	▲16.5（▲7.7）	
建設	▲23.5	▲23.5	▲23.5	▲26.3	▲21.0	▲20.0	▲20.0（▲5.2）	
製造	▲26.0	±0.0	▲9.0	▲8.3	▲27.7	△4.1	▲16.6（△5.5）	
卸・小売	▲11.1	▲6.2	▲28.5	▲32.4	▲30.3	▲18.7	▲34.3（▲21.2）	
サービス	△18.1	△41.1	▲9.5	△8.6	△10.0	±0.0	△7.4（±0.0）	



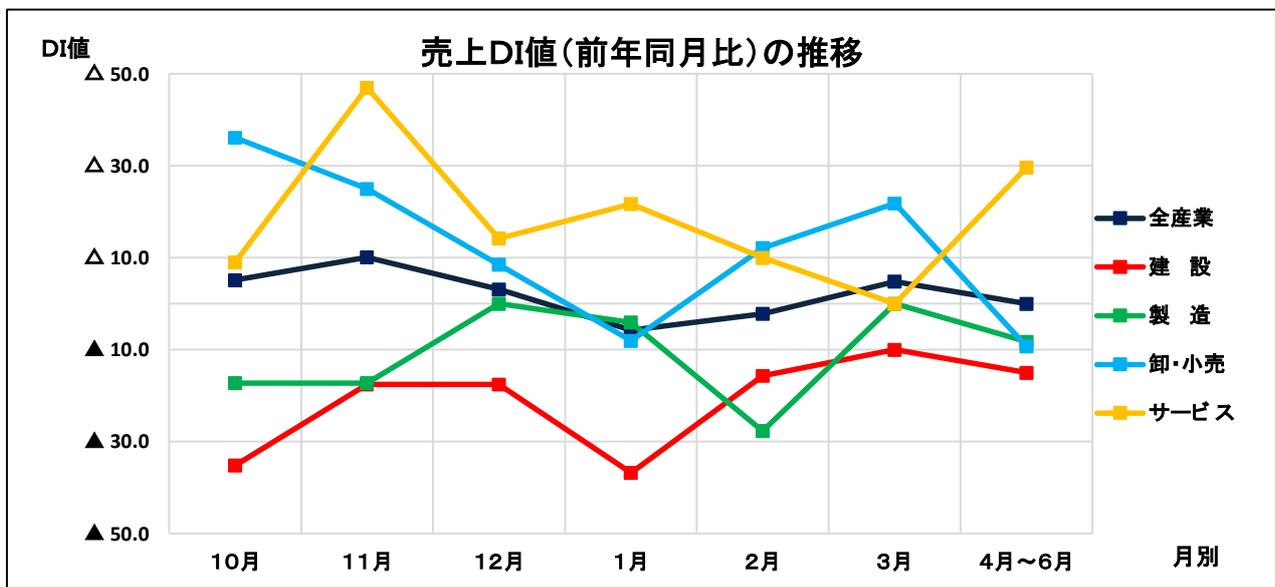
【売上について】

- 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△4.8(前月水準▲2.2)となり、マイナス幅が7.0ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、±0.0(前月水準△5.5)となり、プラス幅が5.5ポイント縮小する見通しである。



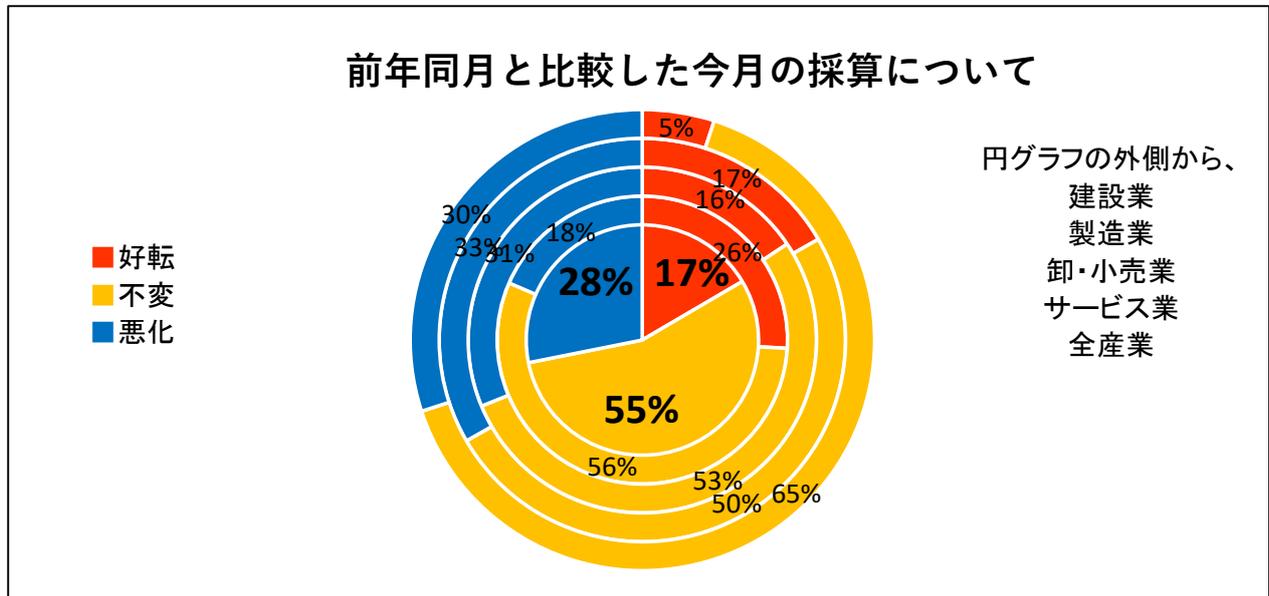
売上DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「増加」の回答割合-「減少」の回答割合

	令和4年			令和5年			先行き見通し
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月~6月(3月~5月)
全産業	△5.1	△10.1	△3.1	▲5.8	▲2.2	△4.8	±0.0(△5.5)
建設	▲35.2	▲17.6	▲17.6	▲36.8	▲15.7	▲10.0	▲15.0(▲5.2)
製造	▲17.3	▲17.3	±0.0	▲4.1	▲27.7	±0.0	▲8.3(△16.6)
卸・小売	△36.1	△25.0	△8.5	▲8.1	△12.1	△21.8	▲9.3(△3.0)
サービス	△9.0	△47.0	△14.2	△21.7	△10.0	±0.0	△29.6(△10.0)



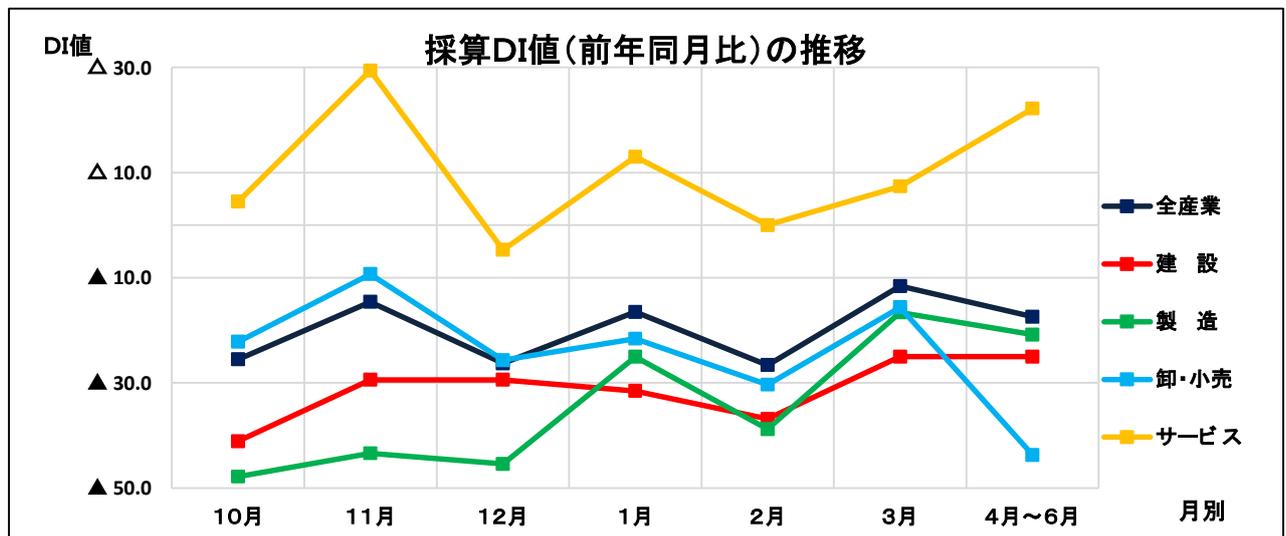
【採算について】

- 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲11.6 (前月水準▲26.6)となり、マイナス幅が15.0ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲17.4 (前月水準▲14.4)であり、マイナス幅が3.0ポイント拡大する見通しである。



採算DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

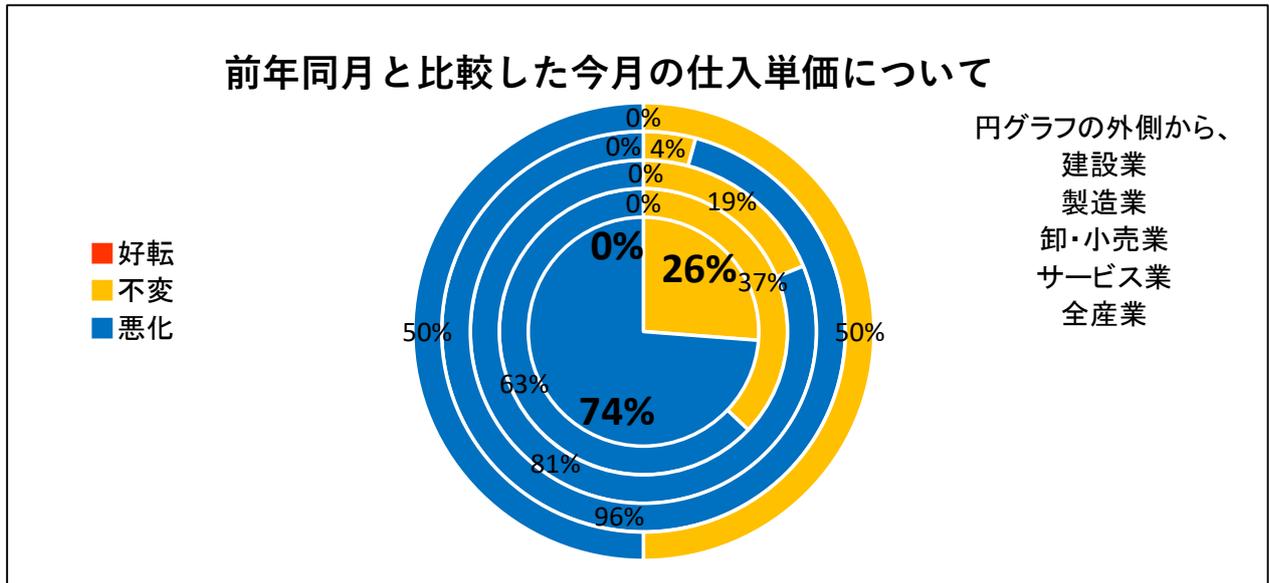
	令和4年			令和5年			先行き見通し
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月~6月(3月~5月)
全産業	▲25.5	▲14.6	▲26.3	▲16.5	▲26.6	▲11.6	▲17.4 (▲14.4)
建設	▲41.1	▲29.4	▲29.4	▲31.5	▲36.8	▲25.0	▲25.0 (▲26.3)
製造	▲47.8	▲43.4	▲45.4	▲25.0	▲38.8	▲16.6	▲20.8 (±0.0)
卸・小売	▲22.2	▲9.3	▲25.7	▲21.6	▲30.3	▲15.6	▲43.7 (▲24.2)
サービス	△4.5	△29.4	▲4.7	△13.0	±0.0	△7.4	△22.2 (±0.0)



【仕入単価について】

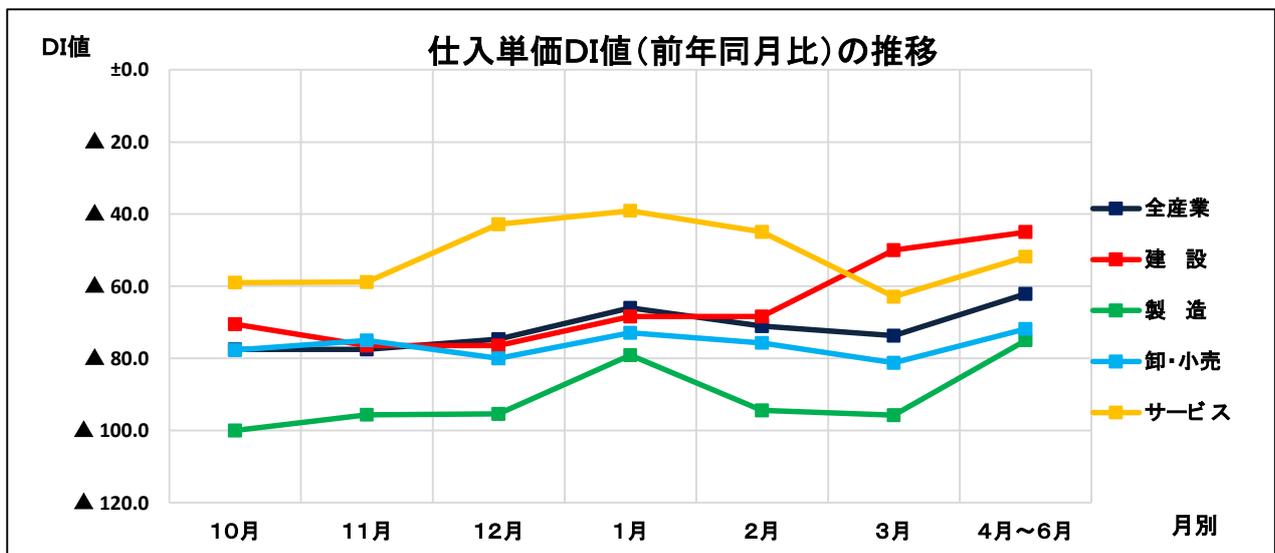
○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲73.7(前月水準▲71.1)となり、マイナス幅が2.6ポイント拡大した。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲62.1(前月水準▲67.7)となり、マイナス幅が5.6ポイント縮小する見通しである。



仕入単価DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「下落」の回答割合-「上昇」の回答割合

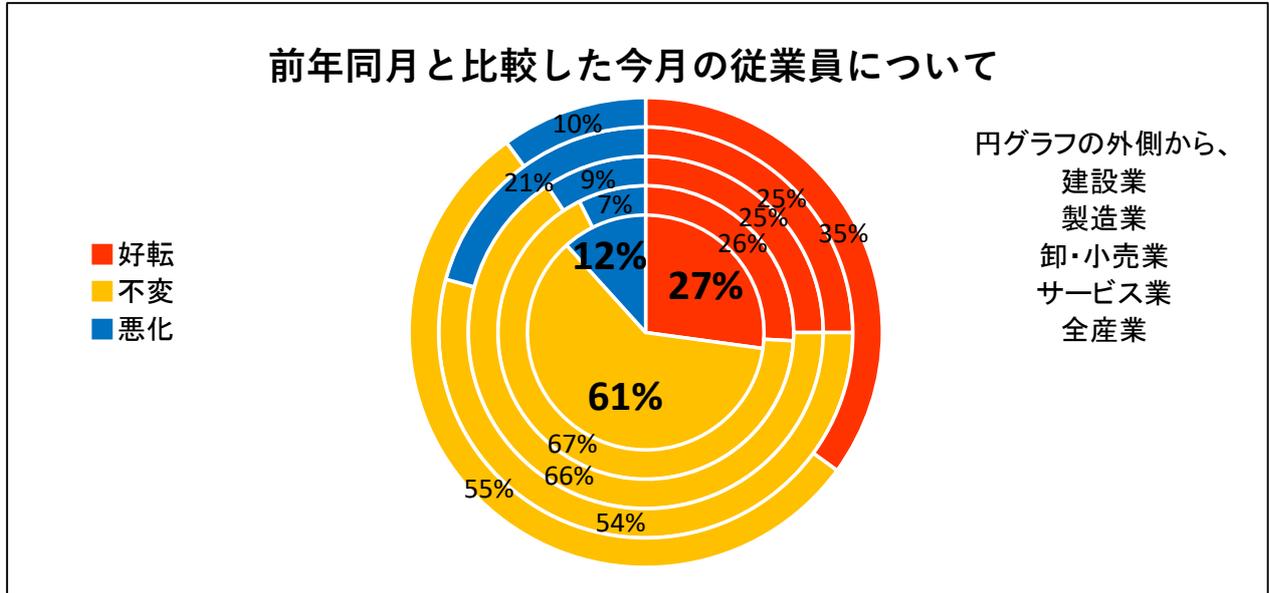
	令和4年			令和5年			先行き見通し
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月~6月(3月~5月)
全産業	▲77.5	▲77.5	▲74.7	▲66.0	▲71.1	▲73.7	▲62.1(▲67.7)
建設	▲70.5	▲76.4	▲76.4	▲68.4	▲68.4	▲50.0	▲45.0(▲63.1)
製造	▲100.0	▲95.6	▲95.4	▲79.1	▲94.4	▲95.8	▲75.0(▲88.8)
卸・小売	▲77.7	▲75.0	▲80.0	▲72.9	▲75.7	▲81.2	▲71.8(▲72.7)
サービス	▲59.0	▲58.8	▲42.8	▲39.1	▲45.0	▲62.9	▲51.8(▲45.0)



【従業員について】

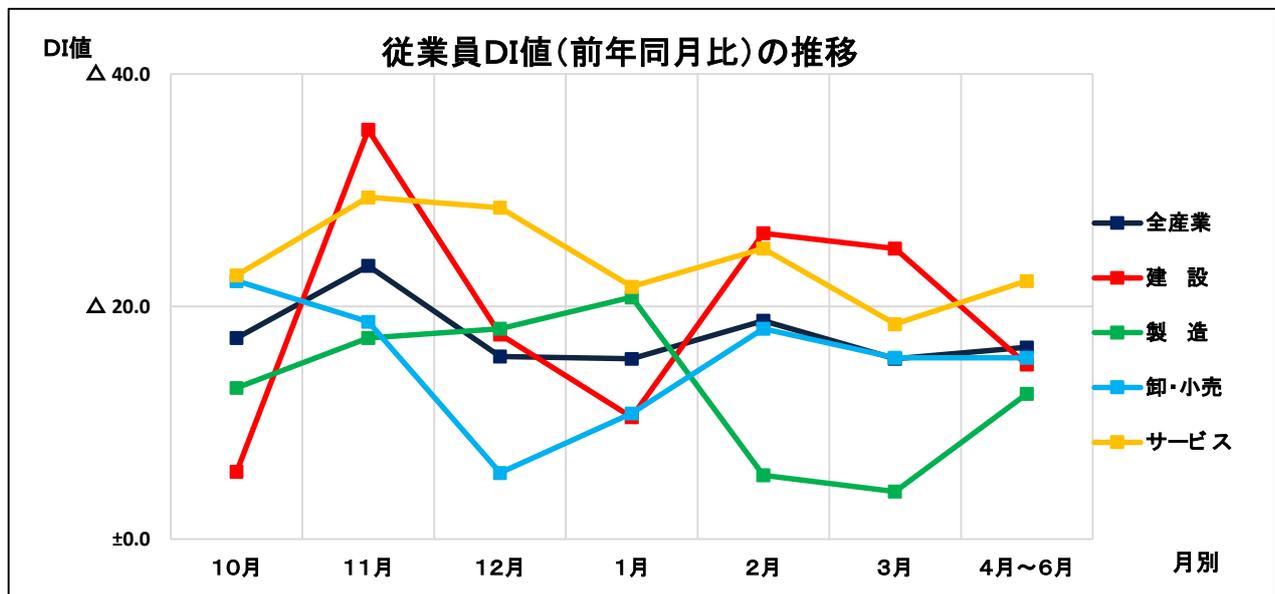
○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△15.5(前月水準△18.8)となり、プラス幅が3.3ポイント縮小した。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、△16.5(前月水準△21.1)となり、プラス幅が4.6ポイント縮小する見通しである。



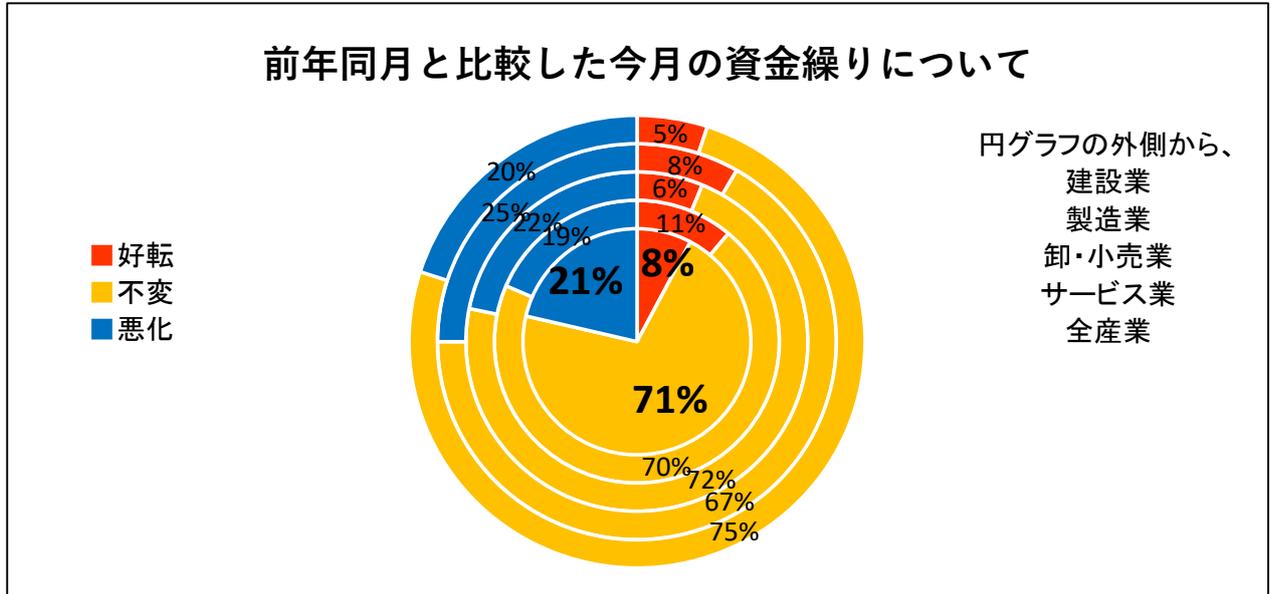
従業員DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「過剰」の回答割合-「不足」の回答割合

	令和4年			令和5年			先行き見通し
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月~6月(3月~5月)
全産業	△17.3	△23.5	△15.7	△15.5	△18.8	△15.5	△16.5(△21.1)
建設	△5.8	△35.2	△17.6	△10.5	△26.3	△25.0	△15.0(△15.7)
製造	△13.0	△17.3	△18.1	△20.8	△5.5	△4.1	△12.5(△11.1)
卸・小売	△22.2	△18.7	△5.7	△10.8	△18.1	△15.6	△15.6(△21.2)
サービス	△22.7	△29.4	△28.5	△21.7	△25.0	△18.5	△22.2(△35.0)



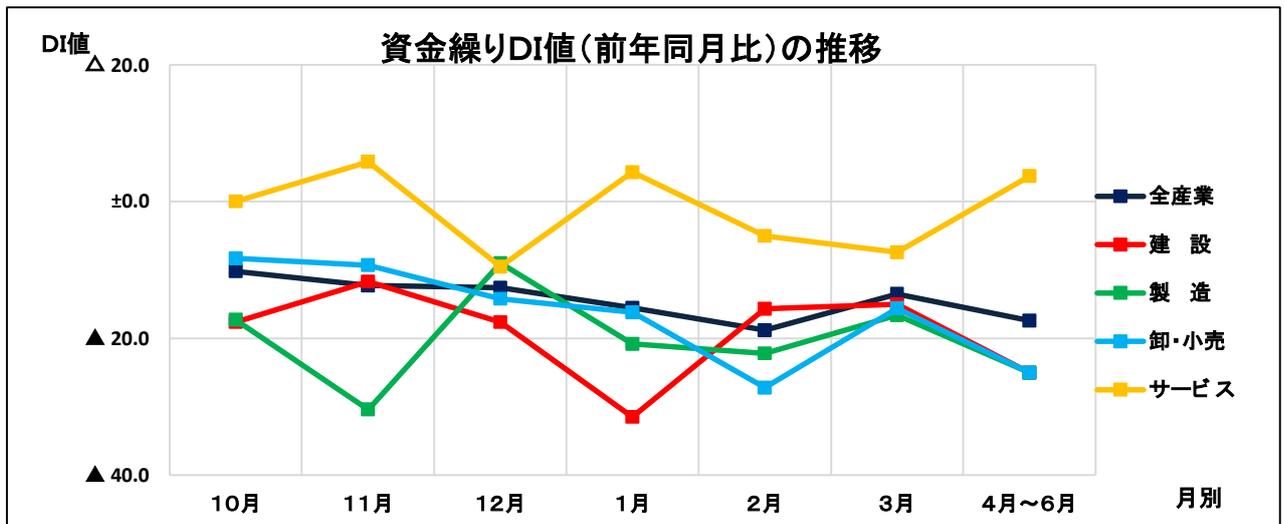
【資金繰りについて】

- 3月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲13.5(前月水準▲18.8)となり、マイナス幅が5.3ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲17.4(前月水準▲13.3)となり、マイナス幅が4.1ポイント拡大する見通しである。



資金繰りDI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和4年				令和5年			先行き見通し
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月~6月(3月~5月)	
全産業	▲10.2	▲12.3	▲12.6	▲15.5	▲18.8	▲13.5	▲17.4(▲13.3)	
建設	▲17.6	▲11.7	▲17.6	▲31.5	▲15.7	▲15.0	▲25.0(▲15.7)	
製造	▲17.3	▲30.4	▲9.0	▲20.8	▲22.2	▲16.6	▲25.0(▲22.2)	
卸・小売	▲8.3	▲9.3	▲14.2	▲16.2	▲27.2	▲15.6	▲25.0(▲18.1)	
サービス	±0.0	△5.8	▲9.5	△4.3	▲5.0	▲7.4	△3.7(△5.0)	

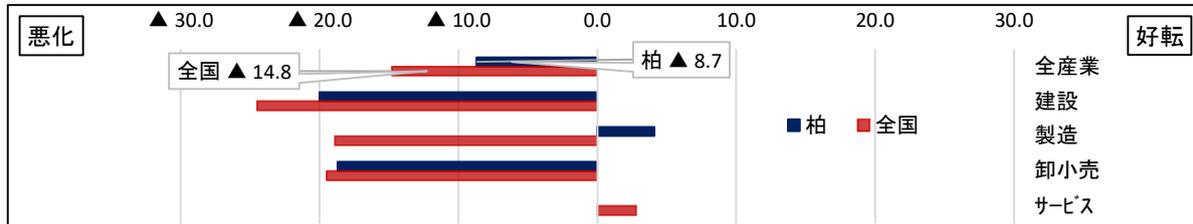


全国（CCI-LOBO）との比較

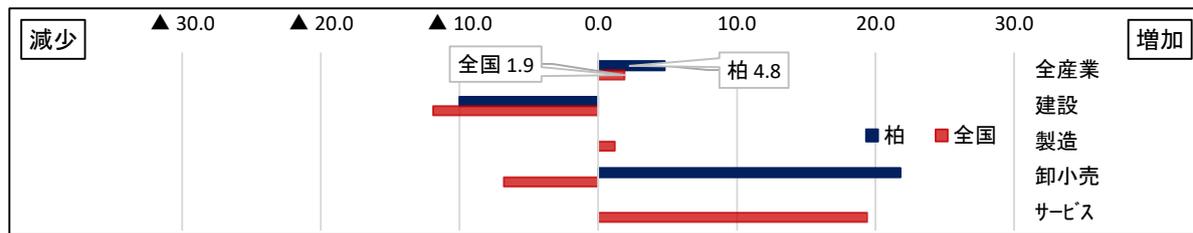
【CCI-LOBOとは】

日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

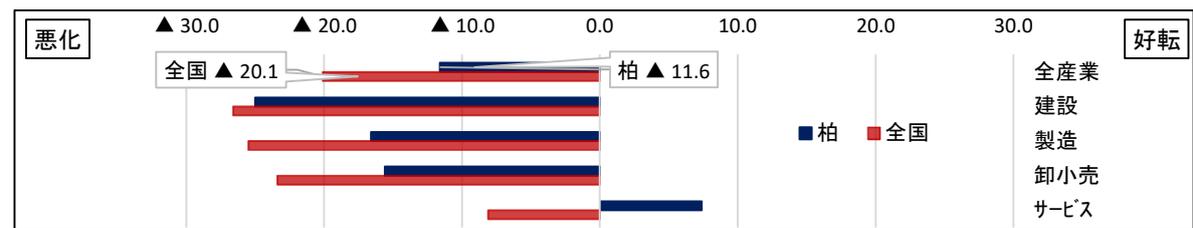
【業況D I】



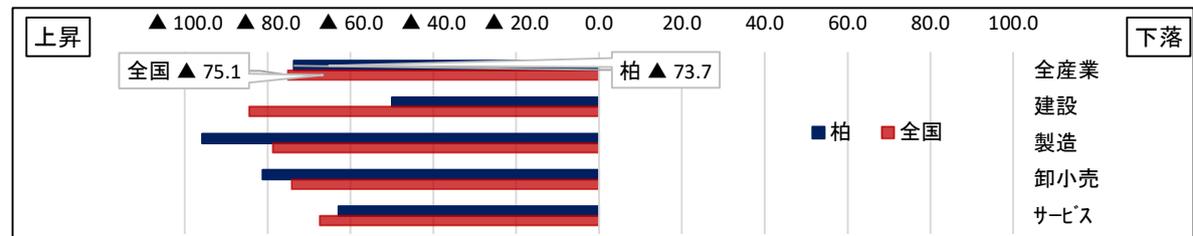
【売上D I】



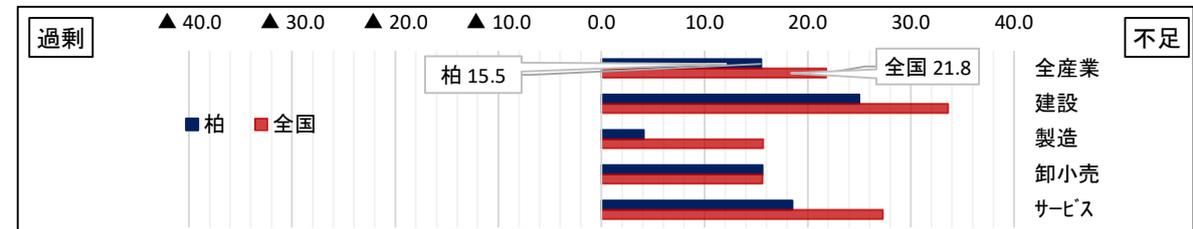
【採算D I】



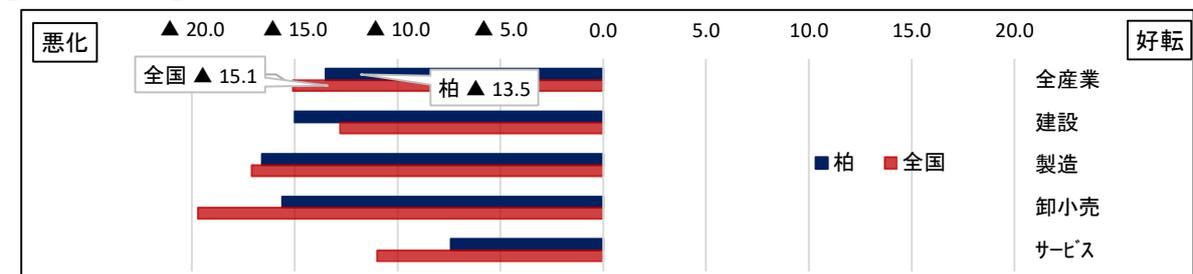
【仕入単価D I】



【従業員D I】



【資金繰りD I】



【業種別】業界内トピックス

業種別	概 況	業種
建設業	幼稚園や保育園など大きな工事が続き業績が上がるといきや、入金より支払いが先行するため、大きな工事をすればするほど資金繰りに苦勞する	とび
	原材料高騰によって痛手を被っていますが、取引先のご厚意により売り上げも上がり感謝しています。	畳工事請負・畳製造販売業
	次世代窓リノベ事業の補助金の問合せが多く、受注が好調です。	一般土木建築工事業
製造業	原材料やその他副資材の高騰や値上げが継続しており、業況は悪化の一途を辿っております。そのため、現在個別に値上げの交渉を進めておりますが、思うように顧客の了解が得られず難航しております。	電子応用装置製造業
	新型コロナの影響で低迷していた化粧品容器の受注に若干回復の兆しが見えてきた。	プラスチック加工
	工場全体の製造量についてはコロナ前の水準に戻ってきたが、輸出を除いた国内についてはコロナ前と比較して約10%減となっている。	酒類製造業
	受注は好調、納期の長い案件が多くなってきている(部品が入ら居ないも含む)のでマネーフローが悪くなってきている。	機械・同部品製造業
	カーボンニュートラル、SDGs、DX、GX等、社会課題対応に取り組むための人材獲得と育成に、中小企業は特に投資が必要。	金属素形材製品製造業
	取引先の過剰在庫により、売上減少が数か月続く見込みで厳しい状況。かつ、電力等の高騰により収益を圧迫。	鉄鋼業
	原材料、副資材の値上がりに加えて、電車運賃、仕出し弁当など従業員の日常の値上げが引き続きある。パート職は昨年10月、社員は今月賃上げを実施。モチベーションアップにつながることを期待したい	金属製品
	原材料、仕入れ商材、電気料金の値上げが幾度もあって止まらない。明確にコストアップ金額のわかる商材の価格転嫁は可能だが、それ以外のコストアップを価格に反映するのは難しい。結果として採算の悪化に繋がっている。	自動車付属品製造業
卸・小売業	売上については、食品が昨年と比べ5%ほど増加、衣料品が好調で20%ほど増加。お出掛け需要が高まっている。水道光熱費の高騰が響いて厳しい状況は変わらず。食品の値上げでお客様は非常に価格に敏感となっている。	大型小売店
	デベロッパーとしてはエネルギー価格高騰、テナントはそれに加え原材料費高騰によるコスト増に伴い、人件費調整や在庫調整など経費削減を試みるが、施設や店舗によっては厳しい状況が続いている。	各種商品小売業
	マスク着用緩和等も後押しし、入店・取扱高ともにコロナ禍以前を上回る推移。ゴールデンウィークに向け、旅行関連・アパレル雑貨に更なる期待。	百貨店
	*天候にも恵まれ売上は上昇。但し、採算の悪化が続く。	各種商品小売業
	主要取り扱い品である海苔の原料価格が凶作のため史上空前の高騰を続けている。そのため仕入れ価格は上昇、値上げや規格改定の年になる。コーヒー等の嗜好品のように徐々に原料価格が上昇していくのではなく50年分が一気にきているような感覚。一部の得意先は理解をしめしてくれるが、この危機を周知するのは難しく海苔業界全体が今年大きな転換期を迎えると思う。注力したい輸出や通販にまわす在庫がなく悔しい思いしている。	食料卸売業
	主原料の卵と生クリームの値上げが痛手、卵の今後の入荷が心配。	洋菓子店

【業種別】業界内トピックス

	<p>SVB, CREDIT SWISS に端を発した銀行問題の影響で、邦銀も日銀による精査が始まっている。3月に融資を依頼し快諾していた地銀3行全て、融資保留となりました。4月以降日銀が方針転換をしYCCの解除や短期プライムレートの見直し等を早急に実施した場合、ショートも含めて脆弱な地銀はSVBのような事態に成り兼ねないかもしれない。貸し渋りの背景はそういった事象なのだろう。何度か論じたが、去年のウクライナ侵攻以降の世界的なインフレにより、日本も長きに渡って続いてきたデフレーションに止めを刺し、徐々にインフレーションの波が襲ってきている。今後は人件費がどんどん上昇し、給与や時給が上げられない企業は、どんどん淘汰されていくと思われる。商工会議所としては、貸し渋りが徐々に増加しつつある現状を鑑み、会員に手を指し伸ばすべく対策を求めたいものである。新規融資の保留、業績回復しているからコロナ融資の支払い延長不可という二重苦になっている企業も少なく無い。</p>	自動車卸売業
	<p>トヨタ自動織機のエンジン車の新車の出荷停止に伴って、物流業界がだいぶ混乱しそうです。日野の件もありましたし、2024年問題も控えていてかなり物流業界的にダメージがあります。</p>	産業機械器具卸売業
サービス業	<p>新年度に向けた新規顧客開拓と、新事業の発足を建てること必須</p>	ソフトウェア業
	<p>原材料の再度の値上げが相次ぐ。人手不足も深刻。</p>	日本料理
	<p>TX沿線の賃貸市況は良好に推移、良質な土地は希薄状態、三郷市に渡す新橋の開通が楽しみ</p>	不動産賃貸・管理業
	<p>建築費の高騰や、物価の値上がり等で採算は悪化しています。また金利の上昇によりお客様の問合せも減少してきています。ウクライナ戦争やコロナ等による景気後退の影響で、将来は不透明です。</p>	不動産管理業
	<p>うちだけではなく、周りの塾も含めて、例年と比べて1月～2月の新規入会者の動きが鈍かった。保護者の声を聞くと、光熱費など諸々の生活費が上昇していることが影響として大きいようだ。3月後半に入ってようやく例年と同じくらいの問い合わせが来るようになった。</p>	学習塾
	<p>金融機関に借換融資のお願いをしたところ、どこも厳しい回答でした。理由としては、新型コロナウイルス感染症特別貸付の返済が始まり、倒産等が増加し回収できないこともあり、借換・新規融資はとても厳しくなっているとのことでした。弊社も微増ながらの売上を伸ばしており、これからというときに貸し渋りの影響で経営が困難になるのは避けたいところです。</p>	一般貨物運送業
	<p>コロナ禍の鎮静化、インバウンドの回復による業況改善が見込まれる。</p>	技術サービス業
	<p>環境装置のアドバイス業は、1990年ごろのダイオキシン(DXN)問題で都市ごみ焼却炉設備等はバグフィルタが多く建設された。近年、その老朽化に伴い設備更新の依頼があり相談件数は増加している。但し、顧問業の単価アップにはつながらず景況的には横ばい状況である。しかしながら、大気汚染防止の一役を担っているとの思いからやりがいはあります。</p>	技術サービス業
	<p>エネルギー価格・仕入れ高騰により利益を圧迫しているところに賃上げのダブルパンチ。来月からの値上げでどれだけ客離れが起こるか不安。</p>	ゴルフ練習場
<p>仕入価格の上昇により販売価格を上げたが、少しずつ差が少なくなり、採算が悪くなるのではと心配です。</p>	食堂・レストラン	

調査要領

回答期間

令和5年3月23日 ～ 令和5年4月4日

調査対象

柏市内150事業所及び組合にヒアリング

<業種別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	150	103	68.7%
建設	33	20	60.6%
製造	36	24	66.7%
卸・小売	43	32	74.4%
サービス	38	27	71.1%

調査方法と調査票

下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通し		
	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 （経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック（記述式）

※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

※DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振
				